

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



天空の水面(みなも)にかがやく森と花園～野反湖～
(撮影者：吾妻森林管理署)

小笠原諸島森林生態系保護地域における関東森林管理局の取組 計画課・・・2

「第57回治山研究発表会及び第55回治山シンポジウム」に参加しました
治山課・・・5

高尾の森から 高尾森林ふれあい推進センター・・・6

きのこ特集 ～秋に発生する「きのこ」～ 総務課・・・7

森づくり最前線 茨城森林管理署 花園森林事務所 森林官 永野みちる・・・8

小笠原諸島森林生態系保護地域における関東森林管理局の取組

計画保全部 計画課

1、小笠原諸島の国有林について

小笠原諸島は、太平洋の北西部、伊豆諸島とマリアナ諸島の間に南北400kmにわたって散在する30あまりの小さな島々です。小笠原諸島で最も大きな父島は、東京から南に約1000kmの距離にあり、船で1日かかります。

小笠原諸島の面積は合わせて10441haで、そのうち林野庁が所管する国有林野は6613ha、全体の

6割を占めています。気候区分は、亜熱帯性気候に属しており、台風の接近・影響を受けることが非常に多い地域です。

小笠原諸島は、一度も大陸と陸続きになつたことがない海洋島であり、自力で海を渡ることができた種や、風や海流、鳥などによって島々に運ばれてきた限られた種が定着し、これらが小笠原諸島の様々な環境に適応しながら独自の進化を遂げていま

す。このため、小笠原諸島で見ることができない固有種が数多く生育・生息し、独自の生態系を形成しています。

関東森林管理局は、小笠原諸島における国有林の特異的・原生的な森林生態系を保全するため、平成19年4月、小笠原諸島の国有林野の約8割に当たる5579haを「小笠原諸島森林生態系保護地域(※)」に設定し、固有の生態系の修復を図るなど、自然環境の保全・管理に取り組

んでいます。

※森林生態系保護地域とは

我が国の気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林生態系としてのまとまりを持ち、特に保護・管理を必要とする区域について、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的として設定するものです。



母島乳房山から眺める石門地区



父島列島兄島の乾性低木林



固有種：オガサワラグワ



固有種：オオバシマムラサキ

また、小笠原諸島は、固有種率の高さや、現在進行中の進化の過程を見ることができると特異な生態系が顕著な普遍的価値を有するとして、平成23年6月、世界自然遺産に登録されました。

2、小笠原諸島の固有の森林生態系を守るための取組

小笠原諸島は、大陸から隔絶された海洋島であり、そこに生育・生息する固有種は、競争相手や捕食する天敵が少なかったことから、外来種の侵入に対して非常に脆弱で、外来種の侵入により小笠原諸島の固有種は深刻な影響を受けています。特に、アカギやモクマオウ、リュウキュウマツなどの外来種は、成長が非常に速く、固有種の生育・生息地を奪うなど、様々な悪影響を与えています。

例えば、かつて薪炭用として沖縄から移入・造林されたアカギは、旺盛な成長により急速に分布域を拡大



固有種：ムニンノボタン

し、特に、母島の桑ノ木山周辺や石門地区では、固有種への影響が深刻になっていきます。

また、荒地地復旧用などとして植栽されたモクマオウは、他の樹種よりも成長が速く、樹冠を占有するとともに、落葉が腐朽しにくく、林床に厚く堆積することにより、他の植物の種子が発芽するのを阻害しています。

このため、関東森林管理局では、小笠原諸島固有の貴重な森林生態系を修復・保全するため、固有種に悪影響を及ぼしている外来種の駆除事業（樹幹への薬剤注入や、伐倒、稚樹の抜き取り）を実施しています。



外来種駆除（抜き取り）

一方で、ある外来種を駆除することによって、その跡地で別の外来種が繁殖したり、大径木化・純林化した外来種を一斉に伐採することによって、林内の光環境・水環境が変化し、そこに生息していた陸産貝類の生育環境に悪影響を与えてしまう場合があります。

また、母島列島では、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されているオガサワラカワラヒワが、モクマオウを営巣木として利用していることもあるため、モクマオウ等の外来種の駆除に当たっては、オガサワラカワラヒワの生息数の回復状況を見ながら進めて行く必要があります。このため、外来種の駆除は、植物



外来種駆除（特殊伐採）

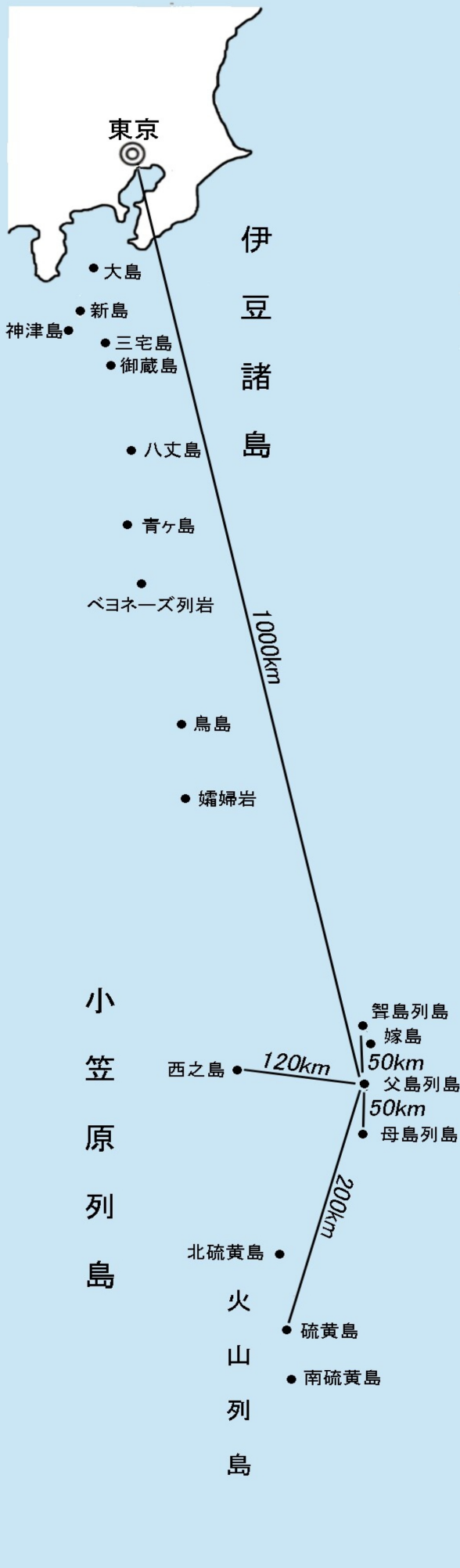
の専門家だけではなく、昆虫類や鳥類などの専門家からも意見を聴きながら慎重に進めています。また、駆除事業の事前・事後に、これらの動物のモニタリング調査を実施して、外来種駆除による効果や固有種等への影響について検証を行っています。



外来種駆除
（樹幹への薬剤注入）



外来種：モクマオウ
林床にはモクマオウの落葉が厚く堆積している



これまで外来種駆除事業を実施してきた結果、父島列島の東島や西島では、モクマオウやギンネムなどがほぼ根絶状態となり、固有種の生息環境の改善や個体数の増加が見られるなど、一定の成果が現れています。複雑に絡み合った固有種と外来種の種間相互作用に配慮しつつ、外来種の駆除を進めていくことは容易なことではありませんが、小笠原諸島の固有の森林生態系を健全な状態で後世へ引き継いでいくため、今後とも小笠原諸島における森林生態系を修復・保全する事業に取り組みたいと思います。



外来種：ギンネム



固有種：オガサワラビロウとメグロ



固有種：アカガシラカラスバト